

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2794800066		
法人名	社会福祉法人なみはや		
事業所名	グループホーム松原なごみ		
所在地	大阪府松原市東新町5-4-10		
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果市町村受理日	令和7年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和6年12月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念により、入居者の尊厳を大切に笑顔の日々を忘れず掲げています。近場に公園があり、1対1で散歩を毎日実施。食べたい物を入居者本位で意見をお聞きし、レクリエーションにて行う(距離のある外出は控えている)家族様に面会をしてほしい事から、月2回予約制・相談室にて2.3時間程面会を実施(外出・外泊はFaに依頼)本人が好きな物を家族へお伝えして、面会時に食べてもらう様にしている。家族様と施設長(私用)携帯だが、LINE電話やメールで直接連絡を取っている。これを行う事により、生の声が聞こえる為、改善点や躍進に繋がる。言葉より行動に移せるように努力する施設です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の法人は介護保険制度制定時(2000年)に設立され、大阪府内に3か所のグループホームと1か所のケアハウスを運営している。当事業所は、最寄り駅より徒歩7分の新・旧の住宅が混在する地に、2ユニットで開設して10年を迎えている。コロナ感染症の5類移行後は面会制限を緩和し、利用者は家族と散歩に出掛けたり、ゆっくり実家に帰って家族と過ごしている。職員は毎月利用者の誕生会をしたり、アンパン・御座候・わらび餅など工夫したおやつを提供するなど変化のある日常を過ごし笑顔でいてもらいたいと支援をしている。管理者は、事業所運営・職員確保にと奮闘し、法人の役員も勤め、3か所のグループホームを統括し、また近所の雑草の清掃など地域密着活動を実践している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【本評価結果は、2ユニット総合の外部評価結果である】			

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々、管理者が元、その考え方を職員に周知させ理解させている。	事業所理念は「入居者の尊厳を大切に笑顔の日々を忘れずに」と設立時に作られ、フロアやインターホン前の目に付く所に掲示して意識するようにしている。また全体会議で確認し、研修時の書類にも記載して意識付けている。職員はケアの中で利用者に笑顔で接し、理念を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会自体が令和6年にて廃止。回覧板も無し。	事業所は自治会に加入していたが、自治会組織が無くなり、祭りや行事も無く、近所で買い物をしたり公園に出掛けて、近隣住民と挨拶を交わしている。地域の人から介護の困り事の相談を受け情報を伝えており、管理者は空地の草むしりなどできることをして、地域交流に努めようとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昔ながら地域に住まいの方々が居なくなり、施設の孤立感が強くなっており、活かしていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様の面会とともに、行っており、意見交換を行っている。	運営推進会議は2か月に1度開催し、利用者・家族・地主・知見者・職員が参加して事業所の現況報告をし、意見を貰っている。議事録は家族に郵送し、事業所に置いて開示している。	運営推進会議は2か月に1度開催しているが、行政職員や地域包括支援センター職員の参加が得られていない。行政・地域包括支援センターと相談してメンバーの充実を図り、広くアドバイスや意見を貰える運営推進会議の開催を望む。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とあまり関わりが無く、書類上の事しか連絡が出来ていない状況。	市の高齢介護課とは関係性が築けていて、事故報告をしたり人員配置の相談をしており、福祉総務課に生活保護受給者の申請に出向くなど、行政とは関係性が築かれている。研修の情報はメールで受けている。グループホーム連絡会に参加し、空室など情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、全職員に周知し、過去から現在に至り、拘束0を行っている。	身体拘束についての研修を年2回実施し、身体拘束適正化委員会を3か月に1度開催し、職員には議事録を回覧して確認し、身体拘束に係る問題の理解を深めさせている。スピーチロック、言葉の言い換えなど具体的に話をし、身体拘束をしないケアに努めている。散歩の日を決めて近くの公園に出掛け、閉塞感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、全職員に周知し、家族からも綿密に連絡を取り合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人の制度は、契約時に家族様にも説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前や見学時に、施設へのメリットとデメリットを十分説明し（契約時にも同じ事を繰り返しており）、理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ユニットの強みを活かし、入居者及び家族様との意見交換を施設長としており、運営に反映されています。	家族の訪問時に意見を聞いており、利用者の好みの食べ物を伝えたり、洋服の買い物の依頼を受けて買っている。ラインで動画を送り利用者の様子を伝えている。家族からは「写真を送ってくれる、良くしてもらっている。感謝している。」の声が届いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営ならび職員の意見は、管理者と職員間で、話しにくい事は、LINEメールや電話でやり取りして、反映している。	毎月全体会議・フロア会議を開催し、利用者の変化や気付きの意見が多く出され、その対応等を話合っている。職員休憩室の提案は実施済みである。管理者とは日常的に意見が言え、ラインで意見や相談もでき、コミュニケーションが取れている。職員は感染症・災害・虐待・身体拘束などの委員会を受け持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場経験に熟知しているので、現場職員の気持ちが分かり、環境を整える事により、入居者さんに大きく反映されると考えて、実行に移せる範囲は行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて、新人研修や定時の研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、グループホーム連絡会があり、同業者と意見交換を交わし、サービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本氏と職員の関係性は初期段階で必ず築く様に努めているが、入居者さんが同士が、先に関係性を築く事が多い。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と密に連絡が取れる様に、電話やメールにて工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設のサービス内容も説明するが、他の介護業種を説明や、他のサービス導入も同じく行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援している・支援されている概念を捨て、共同生活で、「1つ屋根の下」として、入居者同士は理解を得て、関係性が築けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少ない面会の中ですが、十分に築けており、会社の電話から家族に電話する事もあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナで、「外出」や対人は難しい為、車にて住まれていた周辺へドライブする時がある。	利用者の家族や親戚・友達（職場の同僚）が訪ねて来てくれる。利用者は実家に行ったり、長居公園や大和川・戒橋・通天閣など、懐かしい場所までドライブしている。また懐かしい歌謡曲や歌手の歌を歌っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん同士、仲が良く、現在トラブルは無いが、あった場合は、家族や職員と話し合い、フロアー異動する場合がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、管理者が相談に努めますが、現在までは、ありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意見と意向を大切にし、困難な場合は、互いに妥協点を職員と本氏で考え、実践している。	入居前に利用者・家族と面談して、希望やしたいこと・生活歴などを聞きだし、情報提供書を作成している。利用者の意向をダイレクトに聞き、レクリエーションの中で食べたいココア・シュークリームなどを提供し、バーベキューを楽しんだりして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本氏と家族様から情報収集し、レクリエーション等に入れ込み、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る面、出来ない面を分析しながら、1人1人に役割をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本氏、介護支援専門員、管理者、職員、家族からアセスメントとモニタリングを繰り返すだけでなく、電話やメールにて発見に努めている。	介護計画は短期目標6か月・長期目標1年として、計画変更時は家族・利用者・医師の意見・毎月のモニタリング・支援経過を基に担当者会議を経て介護計画を作成している。利用者に変化があれば関係者に連絡してその人にあった介護計画を変更している。	介護計画作成時は利用者・家族・関係者の意見や要望を反映する事、変更時は家族に確認了承が必要であり、担当者会議に参加できない家族には、言葉だけではなく書面等で確認して介護計画を作成、変更することを望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場の力により、職員の記録や意見を根拠に実践や介護計画が活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援を臨機応変に対応し、結果に繋がる様に、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナと住民の活気が無く、取り組んでいるが、空き地が多くなり、なるべく周辺から固めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要性が生じた場合、ダイレクトにドクターや看護師に連絡を取り合い、ドクターから家族へ連絡を行う。本氏の意見を汲み取りながら。	利用者全員が協力医療機関の内科の訪問診療を月2回受け、同時に皮膚科の診療を受ける人も居る。15名中9名の利用者は、歯科医・歯科衛生士の訪問診療を週1回受け、鍼灸院のマッサージを週2回受けている人も6名居る。緊急時は法人系列の病院に搬送している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、週1回以上は施設へ訪問看護師が来られ、連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関に異なりますが、本氏に合った状態で、早期退院を各地域連携室には、ご相談しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では、看取りは行っておらず、契約時に本氏があったサービス案内やサポートの説明を十分に行っている。	重要事項説明書中に、「当事業所は看取りを行っていません」と明記し、重度化対応に関する指針」と共に入居時に利用者・家族に説明し、「緊急時の延命措置に関する取り決め」を交わしている。利用者が重度化した時は医師と家族が話し合い、療養型病院または特別養護老人ホームに移転してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応は、常にフロアのキッチンに貼り出しており、全体会議で周知もさせている。必ず病院へは、管理者も出来る限り駆けつけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練では不安。 ADL向上に繋がる為、レクリエーションの散歩と題して訓練しているが、災害に関しての訓練が何処迄なのかを研修しながら、実際の訓練は行っていない。	「防災マニュアル」を作成し、昼間の火災を想定した自主の消防避難訓練を年2回実施し、利用者も参加して、マットを使用した階段からの避難訓練も行っている。別途3か月毎に、台風・洪水・地震などを想定した災害対策研修も行っている。職員10名程が近くに在住し、夜間でも直ぐに駆け付けられる。水・食料など3日分を備蓄している。	今年度末までに義務付けられているBCP(事業継続計画)を早急に作成し研修を行うこと、また最大の懸念である夜間の災害を想定した避難訓練を実施することを望む。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、自由に過ごしていただいており、常にコミュニケーションを図る場面等、職員も対応している。	プライバシー保護・接遇の各マニュアルを作成し、研修を行って周知している。利用者は「〇〇さま」では無く「〇〇さん」と呼ぶ、職員自身は利用者の子どもか孫と思って接する、などに留意している。不適切な対応があれば、管理者が現場で当該職員に注意し、他職員から聞いた時は監視カメラで確認し注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本氏が出来る事は、本氏で行っていただくのが、大切かと思われませんが、リスクの考えが先行してしまい、、必要性がある場合のみ、職員と一緒にいる様になっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、その時の気分に沿って合わせていく事が大切だと感じて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設側から家族様へお願いし、今のデザインの洋服の購入を依頼しているが、家族様も仕事等で行けない為、管理者が代行で購入しに行く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の料理で飽きがある為、昼食レクで寿司やバーベキューを取り入れたりしているが、事故のリスクが高い為、座った状態で出来る事を依頼している。	朝食はベーカリーから取り寄せ、昼食・夕食の副食は業者から冷凍・冷蔵状態で届き、事業所で湯煎・加熱をし、ご飯と汁物は事業所で作って提供している。レクレーションとして、鰻丼・ぜんざい・たこ焼き・ピザ・ホットケーキ・ポップコーンなどを作って楽しみ、寿司や豚まんを取り寄せることもある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1度、栄養士が訪問し、指導を行っている。(現在、新型コロナ・マイコプラズマで資料配布のみ) 食品会社からも月に1度、アンケートや話し合いがある為、入居者さんの意見に反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	先に本氏の力にて行い、後に職員にて、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンは記録に残しており、全職員が周知し管理をしている。トイレ迄に間に合わない方等は、本氏に確認を取りながら、居室にポータブルトイレを設置したり工夫を考えている。	利用者はおむつ又はリハビリパンツ使用で、個々の排泄パターンやサイン(徘徊しだすなど)を察知して適時に誘導してトイレで排泄するよう支援している。夜間は2～3時間毎に見回ってパッドを交換したり、自らトイレに行く人を支援している。便器に物を投げ入れないように、トイレにはトイレトペーパーとゴミ箱以外は置かないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては、一口大、きざみ、ミキサー、トロミ粉迄、対応を行っている。 水分量も1日の目安を決めており、飲料なども工夫(アクエリアス・コーヒー・紅茶)している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節に合わせた入浴剤を購入。 入浴時間や日は基本は決めているが、気分によらない場合、違う日程にしたり、工夫をしている。	週2回午前中の中の入浴を基本とし、嫌がる人は時間をずらしたり、誘導を工夫している。重度の人はシャワー浴・足浴を行い、湯船の湯を掛けて体を温めている。利用者は、季節に合わせた入浴剤や柚子湯で季節を感じている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて、照明の調整や環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	紛失や誤薬を防ぐ為、職員が一人一人確認をしながら、口の中迄、支援を行っており、薬の管理は施設側で行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	潜在している記憶や、出来る力を活かせる様に、本氏の意見を実行に反映させながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様へ、外泊や外食を積極的に施設側から、お願いをしており、近隣にはレクで散歩を行っている。	土曜・日曜を散歩の日とし、利用者は重度の人も含めて交代で、事業所から100m程の公園まで散歩し、その様子の写真を家族に送っている。近くのスーパーまで買い物に出掛けることもある。玄関前・ベランダの椅子で日光浴をしたり、ベランダでの洗濯物干しで外気に触れている。家族と帰宅や買い物・外食に出掛ける人も居る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本氏自身の金銭管理や施設側では、禁止にしているが、施設側が立て替えて、一緒に買い物に行き、お支払いとお釣りが出てくる迄は、行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本氏や家族様へは、電話は午前9時～午後18時迄は、可にしているので、よく連絡を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアーに、なるべく物を置かず、落ち着く空間作りや、ライトの調整も行っている。	居間兼食堂には利用者と共作の桜の木・クリスマス飾りや干支の絵・塗り絵を掲示し、玄関や廊下の壁面にはドライフラワーを飾っている。利用者が寛げるよう、居間と廊下に2人掛けのソファを置いている。動線を確保し、天板を開けて換気し、夜間は暖色系の照明にするなど安全で快適な空間を創っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本、自由に過ごしていただいており、職員がタイミングを見計らい、間を取りまとめる部分見受けられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本氏や家族からの希望に沿い、心地のよい空間作りを心掛けています。	居室にはベッド・クローゼット・エアコン・洗面台・カーテン・テレビ・タンス・テーブル・換気扇を備え付けている。利用者は椅子・家族写真・自作品などを持ち込んでいるが、安全確保のため、衣類以外の不必要な物はなるべく持ち込まないようお願いしている。事故防止のため、ベッドの足元にクッションマットを置いている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	季節に沿った展示物や、入居者の作品をフロアーで掲載している。		